



# Executive Interview

エグゼクティブ  
インタビュー

no. 70

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

株式会社 にしやま 代表取締役社長

## 西山 量雄 様

小田原市内で内装仕上工事業、店舗住宅施工を行っている株式会社にしやま。代表取締役社長の西山量雄氏は甲子園優勝を経験し、その後、社会人野球で活躍した方。野球に打ち込んだ後の会社経営者としての人生を語っていただきました。

### ■結婚も人間関係も、 野球がつないだ縁

——まずは野球人生について教えてください。

法政大学第二高校の野球部に所属していました。一塁手として野球に打ち込んでいまして、1961年夏の甲子園で優勝。1年下には巨人に入った柴田勲、2年下には初のメジャーリーガーとなったマッシー・ムラカミ（村上雅則）がいます。彼らとは今でも定期的に付き合いがあり、先日もゴルフを楽しみました。

卒業後は社会人野球で5年間。会社の方針で野球部が休部になったのを機に退職。兄の会社を2年ほど手伝い、結婚し子どもが生まれる前のタイミングで独立しました。野球人生を終えたら何か商売をやりようと思っていましたから、会社員時代は資金を貯めていました。最初の会社

を辞める時、人事部長からは「将来のためにそんなにしっかり貯めていた選手の先例はない」と驚嘆されました（笑）。

——最初から内装仕上業として会社を立ち上げたのですか？

いいえ、当初は内装仕上業ではなく、兄の会社で扱っていた合成皮革の卸売です。独立といっても住まいのアパートと仕事場兼用で「西山量雄商店」と名乗っていました。

そこから始まり、キャラクター商品の袋の縫製を請け負ったり、自動車のシートカバーの裁断から縫製を手がけたり、合成皮革を中心に幅広く扱っていました。7年ほど経った1975年に株式会社にして、その後、好景気に乗ってしばらく他分野に手を広げましたが、1980年代後半頃、内装仕上業は自分たちの身の丈に合っている分野であるし、その先大きくなる

可能性も感じたので、事業を一本化し、30年ほどこの道一筋でやっています。

——ご自身は営業マンとして仕事を獲得し、奥様がずっと職人や関連業者の差配を担当しているとか。

営業として私が仕事を引き受けて以降の、内装業者との連絡や納期管理など、先を仕切ってくれる妻には本当に感謝しています。健康管理もしっかりしてくれて、おかげで病知らずですからありがたいです。実は妻は甲子園のダッグアウトでアルバイトをしていて、高校生の私にファンレターをくれたことがきっかけでした。その後、私が社会人野球で所属していた会社の大阪支店に偶然、妻が勤務していたこともあり、その縁で始まった交際でした。結婚を決めたのは、妻の母の人柄を知り「この人の娘なら間違いない」と思ったからです。野球が生んだ縁です。



# 野球人生を終えた後の、 夫婦二人三脚。 人との縁に恵まれ、着実な積み重ね。



夫婦で語る家族のお話は、「困った」と言いつつも常に笑顔。愛情に溢れたいいお話ばかりでした！

野球は人間関係も築いてくれています。地元に戻り、立花学園の野球部監督を13年勤めさせていただいた縁で、仕事にもつながりました。息子は東京大学で文学博士となったのですが、息子が所属した東大野球部でも6年間指導いたしました。若い頃に打ち込んだ野球は、その後の人生の信用の要ともなってくれたのです。

——甲子園での活躍後、プロの世界に行った盟友との差は感じませんでしたか？

若い頃は自分にもそういう気持ちがあったかもしれません。社会人野球から退いてしばらくして、週刊誌で「あの人は今」のような企画で取材を受けたことがありました。その時、つい見栄を張って「年収4,000万円」と大きく言っちゃったんです（笑）。その記事を読んだ税務署の人がうちにやってきました。実際のところは20万円くらいの黒字に過ぎなかったんです。

税理士には「申告書と全く違うじゃないですか」と大笑いされました。恥ずかしかったですね。

——今は会社も大きく成長し、笑い話となりましたね。今年で75歳とお聞きしましたが、後継者は決まっていますでしょうか？

息子は西洋史の研究者となり、我が道を歩いていますが、息子の嫁さんがこちらの仕事を手伝ってくれています。代わりに娘が「私がやらなければ」と後継者となるべく、差配の仕事のみならず、自ら仕事を取ってきてくれたりと、とても頑張ってくれています。親心として、なんとか頼りになるサポート役をつけてやりたいと思っています。けれども、そうした気持ちは娘としては複雑なようで、ぶつかることも度々あります。

■マラソンから駅伝へ。  
次代へ託すタスキ。

——家族で働く大変さがありますね。

家族だけではなく、38年間事務方として支えてくれている社員や従業員、協力してくれる会社に職人さん、たくさんの人たちの生活がかかっていますから、オーナーとして勝手なことではできないと思っています。現場があり、日々異なる注文が入る仕事

株式会社 にしやま

〒250-0865  
神奈川県小田原市蓮正寺633-12  
TEL:0465-37-2480(代) FAX:0465-37-2481

ですから、問題がないように差配していく社内の業務は大変なものです。うちが評価していただいている点は、しっかりとした仕事をしつつ工期を守ることだと感じていますので、そこをきっちりと守りながら、給与面でも遅配などが起こらないように注意深く、何事か起きたら財産を投げ出す覚悟でいます。まあ、私は仕事を取ってくるだけで、皆がやってくれているので、偉そうなことは言えないですよ（笑）。

私も年を取ってきました。だから最近では全て「おかげさんで」の精神で、皆に感謝の心を示さないと、と思っています。今までは自分の脚で走るマラソンのような仕事ぶりでなんとかやっていましたが、これからは駅伝になります。次世代にタスキを託していかないといけません。でも、それがなかなか難しい。とは言え、楽しむために生きないと。昔は酒もタバコもやっていましたが、今はやめています。そのおかげか健康に問題はないし、これからも楽しみながらやっていきたいです。

<インタビューを終えて>

野球を離れた後の人生は、夫婦二人三脚で歩んできた道のり。しっかり者の奥様にはベタ惚れで「来世も一緒になるつもり」と公言なさっており、幸せぶりがとてもまぶしかったです。

奥様曰く「優秀な営業マン」という評は、お話をお聞きするうちに、思わず納得してしまいました。時折グジャレを挟む、陽気な語り口に、笑っぱなし。とても楽しい取材時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。